

4. 風景まちづくりの推進



「自ぜんゆたかな永平寺」

令和3年度 永平寺町小学生風景絵画作品展 中学年の部 優秀作品



「えちぜんてつどう」

令和3年度 永平寺町小学生風景絵画作品展 低学年の部 優秀作品

(1) リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクト方式による風景まちづくりを推進し、今後、この取り組みを町全域に展開していくため、以下の点を考慮してリーディングプロジェクトを設定しました。

- ① 町のシンボルや景観に対する町民の関心が高いと考えられるもの
- ② 自然、農地、歴史・文化、教育、観光、産業、最先端技術など現在の町の特徴を反映
- ③ 町民が身近で風景まちづくりを実感できるよう、地域バランスを考慮

※民間を含め新たな施策やまちづくりの動きがあれば、必要に応じて追加・拡充します。

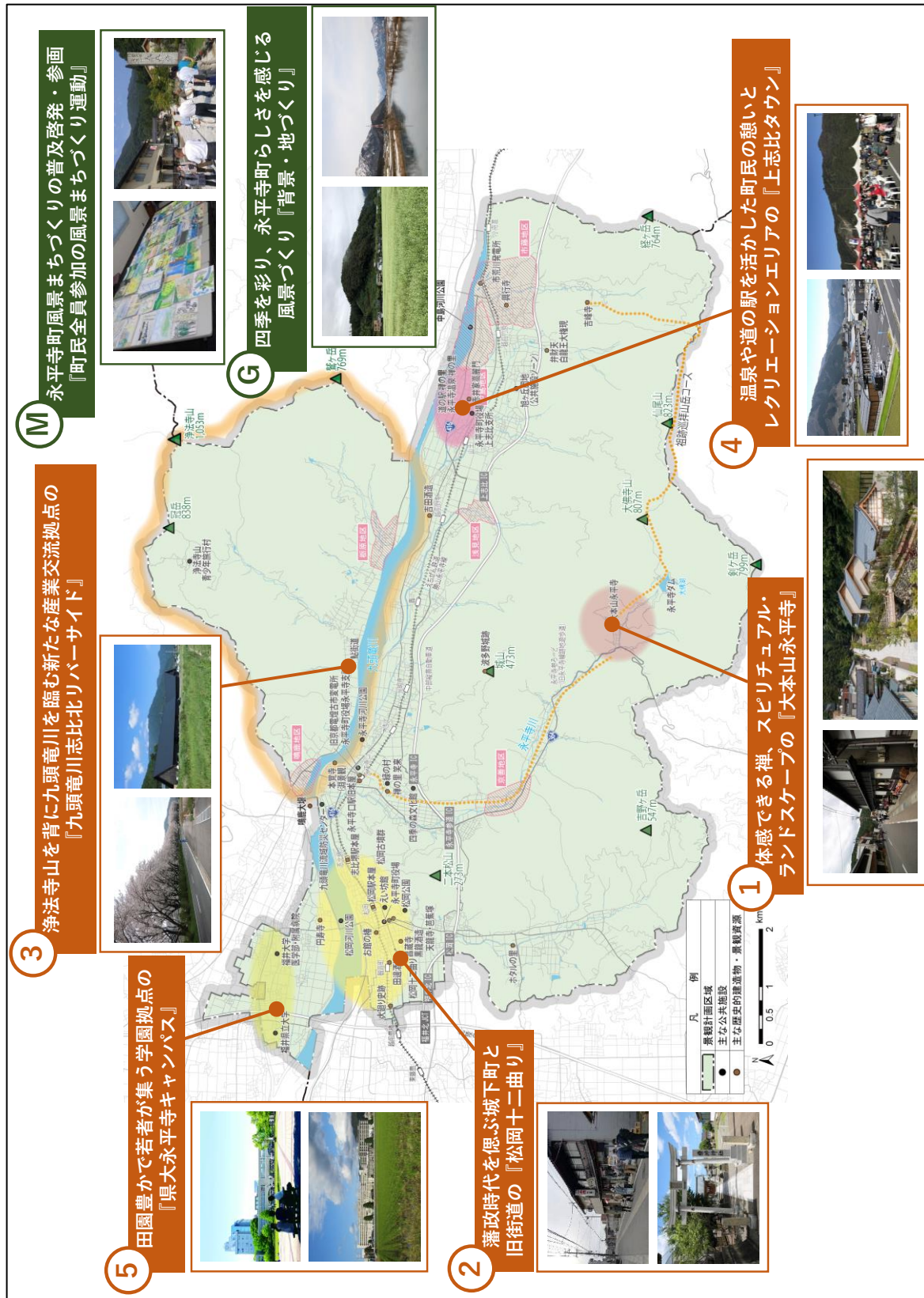
地・図づくり

○町全域において、風景まちづくりの普及啓発・参画を図る『町民全員参加の風景まちづくり運動』と、四季を彩り、永平寺町らしさを感じる景観作物や自然等による風景づくり『背景・地づくり』を展開します。

○5つの拠点において、【図づくり】となる『リーディングプロジェクト』を推進します。

<リーディングプロジェクト>





永平寺町景観計画における風景まちづくり リーディングプロジェクト位置図

(2) リーディングプロジェクトの具体的施策

Project M 永平寺町風景まちづくりの普及啓発・参画 『町民全員参加の風景まちづくり運動』

風景に触れる

風景まちづくりを推進するためには、町民の皆さんが風景に触れ、風景やまちづくりに興味や関心を持ってもらい、風景まちづくりに参画していただくことが最も重要です。

小学生風景絵画作品展、風景を題材にした各種フォトコンテスト、まち歩き、サイクリング、川遊び等を開催し、本町の風景に触れていただく機会を積極的に創出します。

また、本町の風景の良さをさらに発信するため、観光パンフレット等について、四季の写真や景観の視点を盛り込んだ内容に改定していきます。

**令和3年度 永平寺町
風景絵画作品展**

永平寺町の風景の良さを発見して描くことで、郷土愛の醸成や風景まちづくりに興味を持っていただくことを目的に、『私の好きな永平寺町の風景』を募集したところ、町内の小学校に通う児童から164点の応募がありました。

最優秀賞



だいすきなばしょ
寺島 凛 (吉野小1)



きれいなホテル
朝井 優斗 (吉野小3)



北島大橋の上から
大坂 そよか (志比北小6)

優秀作品



えちぜんてつどう
嶋川 凜花 (志比小2)



自ぜんゆたかな永平寺
旭 春菜 (吉野小3)



松岡ふみ切りとかめや
長谷川 澄人 (松岡小4)



学校のまわりの自然
中井 徠人 (志比南小5)



たにくちをえちてつがはしているところ
村上 瑠花 (志比小2)



吉野のホテル
安達 丈琉 (吉野小4)



こえ坂の坂からのながめ
服部 良佳 (松岡小4)



ぼくの好きな場所
安福 勇瑚 (志比小6)

令和3年度から始めた小学生による永平寺町風景絵画作品。

優秀作品を町広報誌に掲載。図書館等で巡回展示実施



新緑の松岡河川公園を眺めながら、九頭竜川堤防をお散歩する園児



新たに作成した九頭竜川を活かしたサイクリングルートマップ「九頭竜ぐるっとペダル」



「自転車に乗ってフォトコンテスト」の開催



議会による関心喚起。議会だより表紙「まちの自慢の風景写真」を募集・掲載



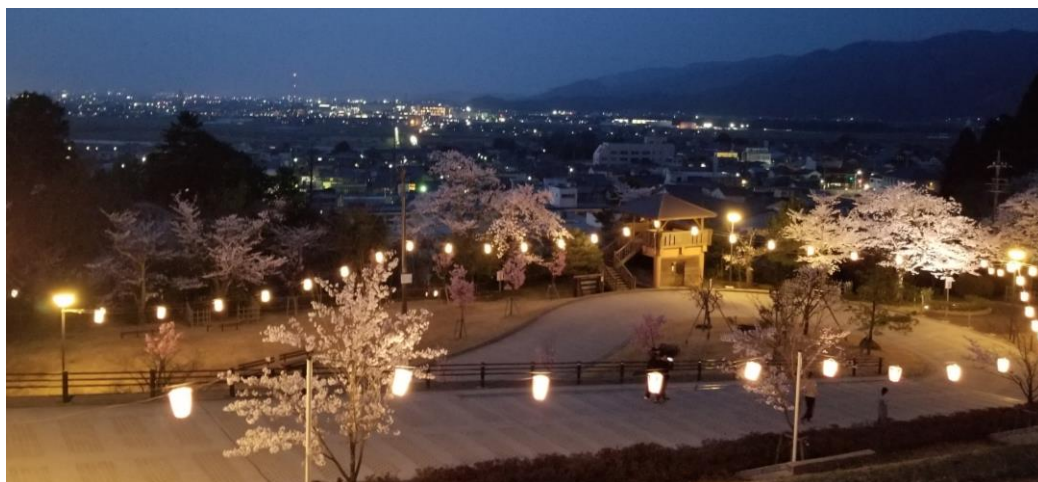
令和2年11月、進士五十八先生による「風景づくり」のご講演。景観計画策定に向けたキックオフイベント



九頭竜川の鳴鹿大堰上流の静水域「シカノバ」
初心者向けのカヤック体験試乗会



九頭竜川の上級者向けフリーカヤック競技場「ナミノバ」
全国大会が開催。世界大会を目指す。



夜間景観スポットの発掘と周知。上が高台にある「松岡公園」、下が「九頭竜川鳴鹿大堰」



四季のフォトコレクションなど、永平寺町の魅力的な風景を紹介した観光パンフレットに刷新



校門の前で校舎に向かって毎日一礼する中学生の姿も、本町の特徴的な風景の一つとなっています。



ボランティアの方による役場玄関の花飾り



古民家で開催した景観づくりワークショップ



日々感謝
ただ真じと及ぶす

SHOJIN

永平寺町の地域産品認定ブランド【『SHOJIN』～気づきに出会う禅のまち～】
 まちの魅力をアピールする地域の個性に加え、創造性にあふれた産品を選定して、広く発信。
 SHOJIN ブランドには、作り手の「心」が入っています。(SHOJIN の字の中に心が入っています。)

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
風景にふれる	①風景に触れ、風景まちづくりに興味関心を持ってもらう機会の創出	●	●			
	②小学生による「永平寺町風景絵画作品展」の開催。優秀作品の町内巡回展示	●	○			
	③「自転車に乗ってフォトコンテスト」の開催	●	○			
	④「永平寺町の建築物・構造物」フォトコンテストの開催。写真を使用したカレンダーの作成	●	○			
	⑤「永平寺町の食文化」フォトコンテストの開催	●	○			
	⑥「町自慢の風景写真」の継続募集。町議会だより表紙への掲載	●	○			
	⑦九頭竜川八景や永平寺町夜景スポット等、フォトコンテストの開催、写真の選定	●	○			
	⑧まち歩き、ポタリング（風景を楽しむお散歩サイクリング）等の開催	●	●			
	⑨サイクリングマップの作成、発行。九頭竜川堤防を活用した新たなサイクリングルートの開発	●	○			
	⑩「九頭竜川カヤック試乗会」の開催。九頭竜川から見た水辺の風景・景観スポットの発見	○	●			
	⑪九頭竜川一斉清掃美化活動。ゴミを拾いながら河川敷を歩き、環境や景観を自然と意識	○	●			
	⑫九頭竜川等河川の利活用の推進。稚魚の放流イベントや「ナミノバ」「シカノバ」の活用	●	●			
	⑬古代の歴史を感じる古墳群や遺跡に関する企画展や文化財講座等の開催	●	○			
	⑭公共施設（町役場、公民館等）の玄関を花で飾る。	●	○			
	⑮アーティスト滞在型活動の推進。芸術家と町民の交流の創出、有名写真家による町の撮影、作品展の開催	●	○			
	⑯景観に関連する講習会、ワークショップ等の開催	●	●			
	⑰景観の視点を入れ込んだ町観光パンフレットの作成。四季の写真や風景の良さをPR	●				
	⑱町観光ホームページのリニューアル。四季の魅力発信、視覚情報の充実、インバウンド対応等	●				
	⑲3市町（大野市・勝山市・永平寺町）を巡る体験ツアー開催など広域観光の推進	●				
	⑳永平寺町のブランド「禅」「ZEN」「SHOJIN」などの周知・広報の強化	●				

※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

Project G 四季を彩り、永平寺町らしさを感じる風景づくり 『背景・地づくり』

山

本町は、標高1,000m級の「浄法寺山」をはじめ、「吉野ヶ岳」、「二本松山」、「大佛寺山」、「城山」などの山々が背景となる風景が広がっています。

森林の間伐、落葉広葉樹の植栽に対する補助支援など、景観面・防災面ともに優れ、四季を感じられる落葉広葉樹の森づくりに取り組みます。人工林である針葉樹が多いことから、長期的には四季を彩る落葉広葉樹の山並みとなるよう、林相転換を目指します。

また、本町の山地には北陸最大級の大きさを誇る「手繰ヶ城山古墳」などの古墳群や「波多野城跡」などの遺跡などが数多く残っています。

古墳群や遺跡の周知・活用を図るとともに、より訪れやすい場所となるよう、登山道や案内看板等の整備を行います。



近景に九頭竜川、遠景の山なみ（上志比地区）



北陸最大級の大きさを誇る手繰ヶ城山古墳



浄法寺山の紅葉

川

本町は町の中心部を東から西に福井県内最大の「九頭竜川」が流れています。他にも永平寺川や荒川など町民に親しまれている河川が数多くあります。

九頭竜川を眺めるポイントは多く、サイクリングや散策したくなるよう、堤防天端アスファルト舗装や魅力的かつ安全な視点場の整備など、九頭竜川の価値や存在感を高めています。

令和2年4月には、「九頭竜川かわとまち協議会」が設立され、翌年には中島河川公園付近に、フリースタイルカヤックコース「ナミノバ」がオープンしました。

今後、このエリアを含め、九頭竜川の新たな利活用の方法を検討していきます。



本町の中心部を東から西に流れる県下最大の「九頭竜川」



九頭竜川沿いでの花火大会



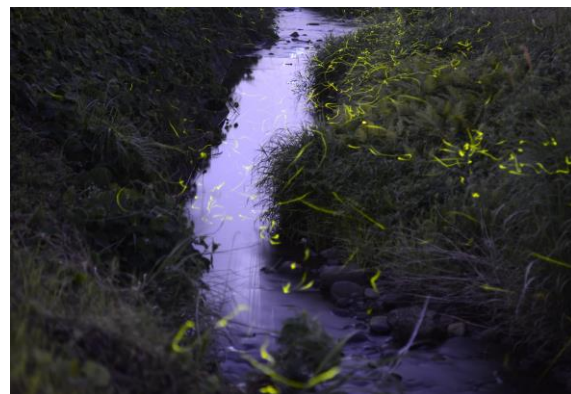
鮎釣りの聖地「九頭竜川」



九頭竜川の桜並木と五松橋



九頭竜川での永平寺大燈籠ながし



荒川を舞うホタル（吉野地区）

農

本町には四季を彩る広大な農地が広がっています。農業振興や農家への支援など、農業経営の安定化が農地景観の維持につながります。

豊かな農地景観を守るため、レンゲ草やソバ等、本町の特徴的な風景をつくっている農作物に対する支援など、生産者がより意欲的に農業に従事できるよう取り組みます。

秋に咲きほこる栃原区のヒマワリ畑のような話題の風景については、景観の保全や継続的なPRを実施していきます。



学生アパート群を背に、若い穂が風になびく青田



満開を迎えたレンゲ草畑（レンゲ米の田植え前）



秋に咲きほこる栃原区のヒマワリ畑



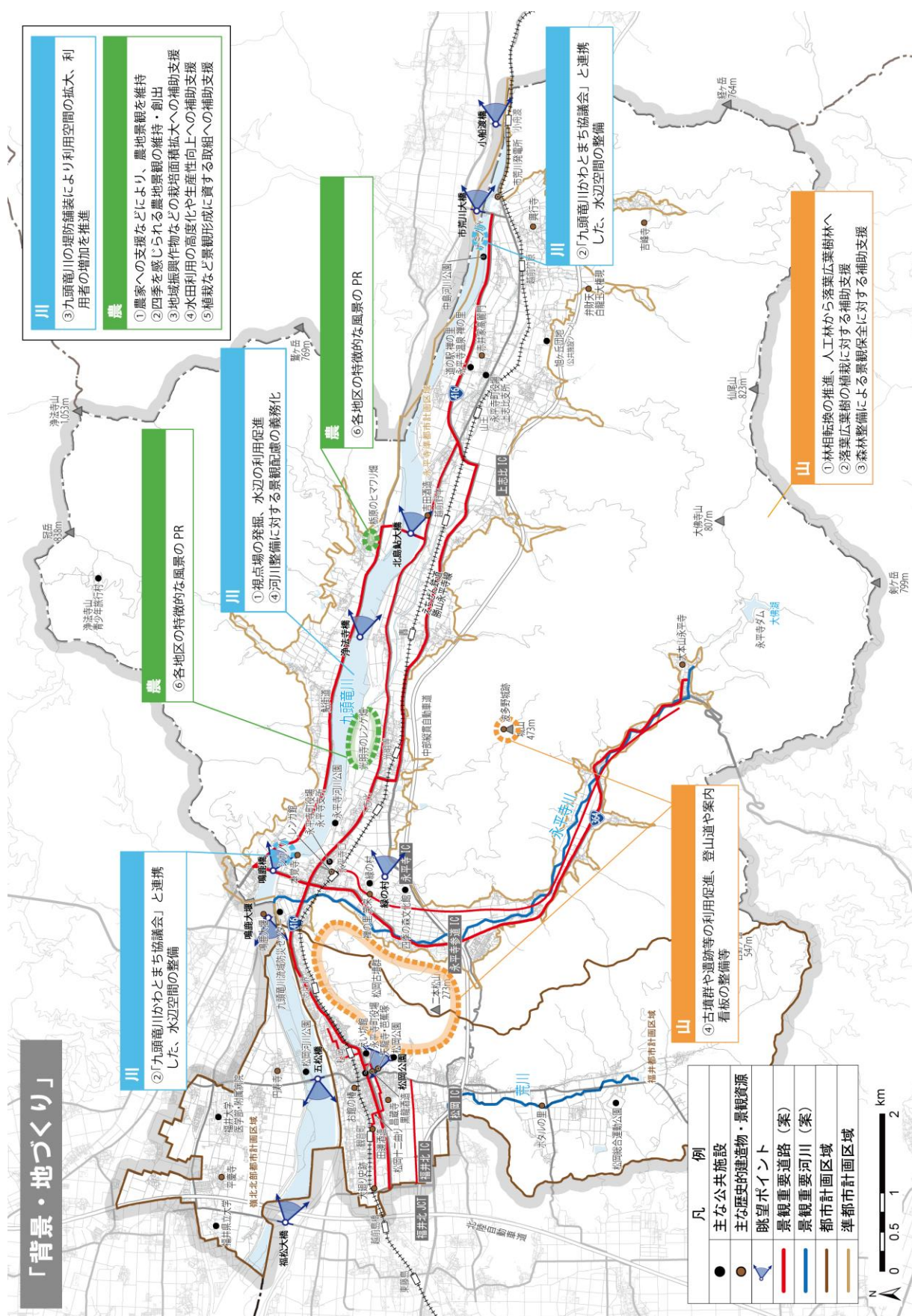
麦の穂がたわわに実る麦秋畑



収穫間近の秋の新そば畑



収穫時期を迎え、こうべをたれる稲穂



Project G 『背景・地づくり』の位置図

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
山	①四季を彩る山並みとなるよう、林相転換を推進。人工林から落葉広葉樹林へ（長期的）	●	●			■
	②ミズナラ等の落葉広葉樹の植栽に対する補助支援（町広葉樹植栽事業）	●	○	■		
	③森林整備による景観保全や山ぎわの伐採・間伐等に対する補助支援（町山ぎわ森林整備事業）	●	○	■		
	④北陸最大級の手繰ヶ城山古墳、春日山古墳、越前波多野城跡等の遺跡の利用促進。登山道や案内看板の整備等	●	●	■		
川	①九頭竜川を魅せる、活かす。川を眺める、川から眺める視点場の発掘。水辺の利用促進	●	○	■		
	②「九頭竜川かわとまち協議会」との連携によるナミノバ、シカノバ等水辺空間の整備	●	●	■		
	③九頭竜川の堤防舗装により、利用空間を拡大し河川利用者の増加を推進	●		■		
	④河川の整備に対する景観配慮を義務化（九頭竜川等を景観重要公共施設に指定）	●			■	
農	①農業の振興、農家への支援など、農業経営の安定化により、農地景観を維持	●	●	■		
	②レンゲ草やソバ等の栽培により、四季を感じられる農地景観を維持・創出	○	●	■		
	③地域振興作物（玉葱、にんにく等）や推奨作物（ふくこむぎ、レンゲ米）の栽培面積拡大への補助支援	●	○	■		
	④レンゲ米の作付け等、水田利用の高度化や生産性向上への補助支援（町水田農業構造改革対策交付金）	●	○	■		
	⑤畔等への芝ザクラ植栽など景観形成にも資する取り組みへの補助支援（多面的機能支払交付金）	●	○	■		
	⑥栃原のヒマワリ畑、光明寺のレンゲ畑など各地区の特徴的な風景をPR	●	○		■	

※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

永平寺町 四季の彩り



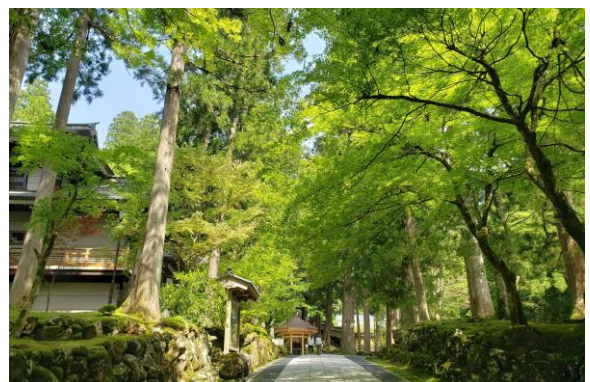
雪解け頃に満開を迎える、町の花「梅」



桜の名所「松岡公園」。園内の古墳や石棺も見所



伝承料理「葉っぱずし」に使われる
町の木、「油桐（アブラギリ）」の新緑



「大本山永平寺」正門で感じる
爽やかな香りと色鮮やかな新緑



松尾芭蕉が歌を詠んだ座禅の道場「天龍寺」の紅葉



大本山永平寺の前を流れる永平寺川沿いの紅葉



雪山を背に、雪原を力強く走る「えちぜん鉄道」



「大本山永平寺」の「五代杉」冬景色

Project 1 体感できる禅、スピリチュアル・ランドスケープの『大本山永平寺』

禅文化と門前

「大本山永平寺」や禅の文化は、本町はもとより、本県を代表する歴史的・文化的景観であり、国内外に強く発信することが必要です。

大本山永平寺が進めている禅の里事業を支援し、禅文化の国際的影響の大きさを理解しながら、「禅」を前面に打ち出した観光パンフレットやホームページのリニューアル等を行います。

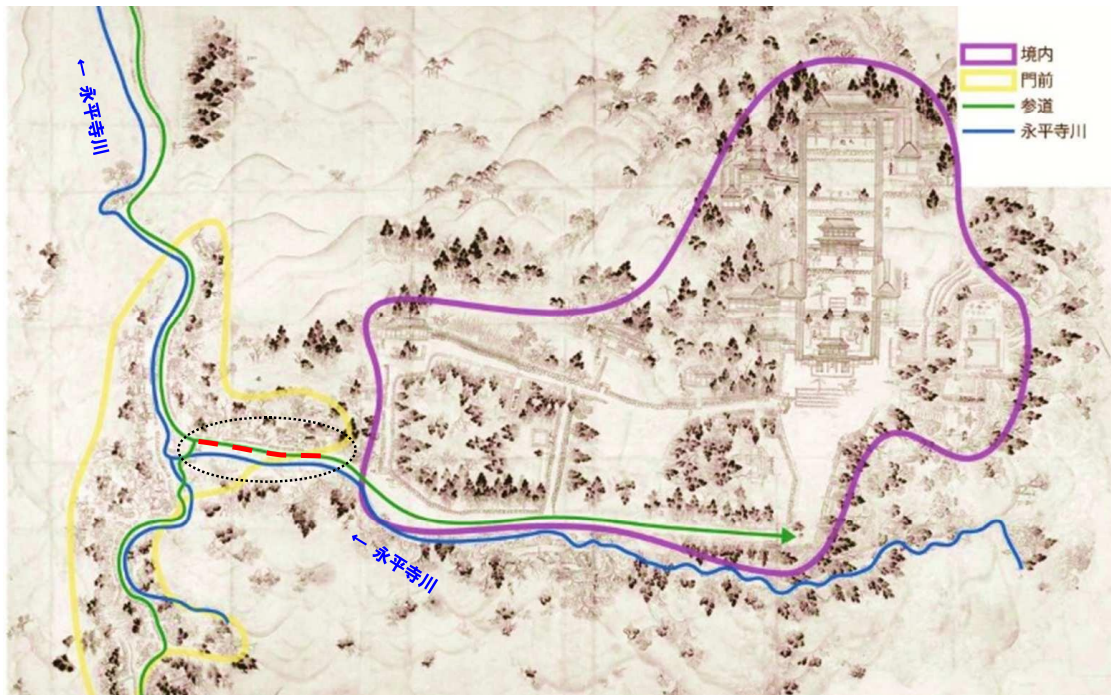
また、道元禅師ゆかりの地である「吉峰寺」にもフォーカスすることで、スピリチュアルな周遊観光コースの設定や、登山道「祖跡巡拝山岳コース」などの整備修景・PRにより、全町的な周遊観光の促進を図ります。

門前エリアでは、これまで町、県、大本山永平寺が協働して、旧参道の再生整備や永平寺川の河川修景整備、親禅の宿「柏樹關」の整備等を実施してきました。

引き続き、さらなる高質化やにぎわい創出に向けて、門前通りの風景まちづくりに取り組んでいきます。



曹洞宗 大本山「永平寺」



旧参道再生整備は 1600 年代の大本山永平寺周辺の古地図が参考



(整備前)



(整備後)

旧参道再生整備の前後



再生整備された旧参道、近自然河川工法により整備した永平寺川、
新設された大本山永平寺 親禅の宿「柏樹閣(はくじゅかん)」

大本山永平寺の門前のみでなく、門前に至るアプローチである国道 364 号周辺の沿道植栽の修景や門前の道路・河川・駐車場の再配置整備により、大本山永平寺禅境の厳かな雰囲気醸成する必要があります。

また、屋外広告物の改善等により、良好な景観を形成していく必要があります。



建物の修景や屋外広告物の改善など、通りの高質化が期待される門前地区



道元禅師ゆかりの地「吉峰寺」



【望ましい姿】大本山永平寺禅境の厳かな雰囲気醸成する配置転換

まい 参ろ一ど、沿道

観光のゴール大本山永平寺への道すがらの景観の印象は極めて重要です。

永平寺口駅から大本山永平寺につながる遊歩道「永平寺参ろ一ど」では、国内初のレベル3（遠隔監視操作型）無人自動走行運転「ZEN drive」が運行しており、この最新技術と禅文化を融合させ、ZEN ブランドの強化を図ります。また、ウォーキング大会の開催等、「参ろ一ど」の有効活用を図りながら、沿道の修景・緑化等、眺望景観の改善に努め、地元住民や観光客の利便性を高め、魅力的な景観を形成します。

大本山永平寺へ向かう国道 364 号沿線の「永平寺町 四季の森複合施設」は、令和 3 年に IT 拠点施設としてリニューアルされ、施設内の「旧傘松閣」では外国人芸術家による展覧会が行われる等、「禅」等の発信拠点として、引き続き利用を促進します。

「伝統的民家群保存活用推進地区」である京善地区の農村集落景観の保全に向け、民家の保全や改修に対する支援等により、伝統的民家の活用を推進します。



国内初のレベル3 無人自動走行運転が実用化された参ろ一どを走る「ZEN drive」



「参ろ一ど」での禅ウォーキング大会



大本山永平寺の大広間を再現した「永平寺町四季の森複合施設」にある「旧傘松閣（絵天井広間）」



沿線の京善地区の伝統的民家群

Project 1 『大本山永平寺』の位置図

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
禅文化	①禅文化の国内・世界への発信強化。大本山永平寺や周辺の魅力発信、禅境の強化醸成	●	●	■		
	②禅文化を前面に打ち出した町観光パンフレットの作成、観光ホームページのリニューアル等	●	○	■		
	③道元禅師ゆかりの地である吉峰寺のPR、魅力発信の強化	●	●	■		
	④大本山永平寺や吉峰寺等を巡る周遊観光の促進、観光コースやサイクリングコースの紹介	●	○	■		
	⑤吉峰寺～大佛寺山～大本山永平寺に至る登山道「祖跡巡拝山岳コース」の周知、改善	●	○		■	
門前	①門前のさらなる高質化、にぎわい創出の推進	●	●	■		
	②門前通りの景観、厳粛な雰囲気、にぎわい向上に向けた意識の醸成、セミナー等の開催	○	●	■		
	③屋外広告物（案内看板、自家用看板）の改善による良好な景観づくり	○	●		■	
	④門前通りや永平寺川沿いを緑と花の名所に。みんなで紅葉等を植樹	○	●		■	
	⑤門前通りの道路景観整備（舗装の高質化や無電柱化等）	●				■
参ろど、 まい、 沿道	①自動走行運転 ZEN drive と禅文化を結び付け、ZENと禅のブランドを強化	●	○	■		
	②参ろど ^{まい} の有効活用。ウォーキング大会等のイベントの開催。除草・伐木等による参ろど ^{まい} 沿いの見通し景観の確保	●	○	■		
	③自動走行運転技術のさらなる技術進化による参ろど ^{まい} の利便性・安全性の向上	●	○	■		
	④「四季の森」や「旧傘松閣」の有効活用。ZEN に関するイベントや展示会等の開催	●	○		■	
	⑤早稲田大学による伝統的民家群（京善地区）の調査研究との連携。古民家の有効活用の検討	○	●	■		
	⑥伝統的民家の保全や改修に対する補助支援	●	○	■		
	⑦景観により配慮した永平寺川の整備、管理（永平寺川を景観重要公共施設に指定）	●			■	
	⑧町内観光案内看板のリニューアル（デザイン変更）	●			■	

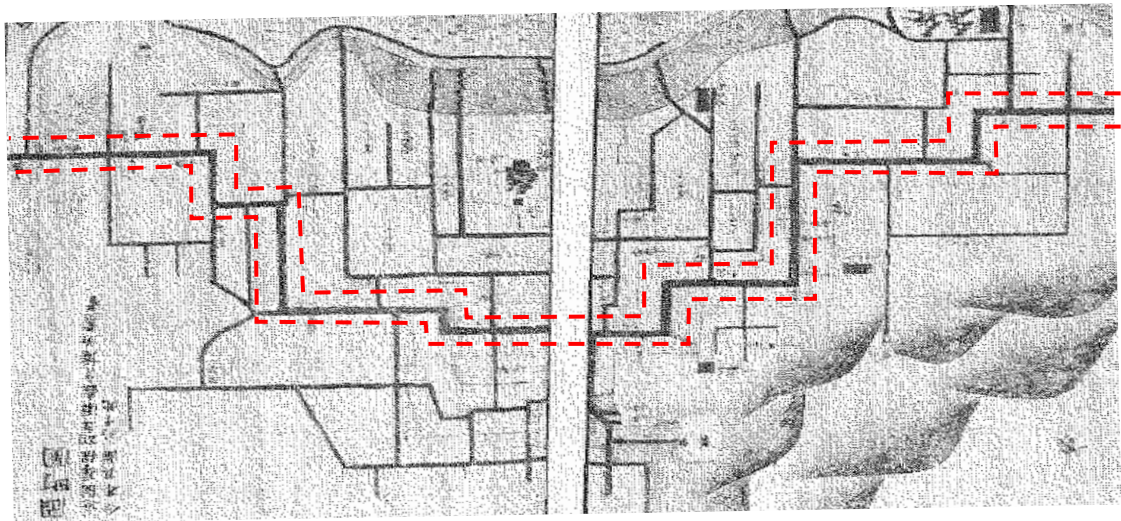
※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

Project 2 藩政時代を偲ぶ城下町と旧街道の『松岡十二曲り』

街道

江戸時代の城下町の雰囲気が感じられる松岡藩政時代の大通りの名残が、永平寺町役場周辺の市街地で見られ、敵が攻めてきても簡単に通り抜けられないよう、通りの向こうが見通せないよう、直角の12の曲がり角が今も残っています。

身近に歴史を体感できる「十二曲り」を活かしたまちの活性化やまちなか観光の推進に向けては、松岡十二曲りの周知や知名度向上が必要です。散策ルートの検討、モデルコースの作成、まち歩きやお散歩サイクリング等のイベントを継続開催していきます。



松岡藩時代の古地図。今も当時のまま残る12の曲り角（赤点線）



藩政時代の城下町と旧街道「松岡十二曲り」

松岡十二曲りには、うだつのある伝統的民家のほか、十数ものお寺や神社が立ち並んでいます。一方、市街地部の住宅街でもあることから、変わらない街並みと変わりゆく街並みが広がっています。



うだつのある伝統的民家が軒を並べる十二曲り



通りの向こうが見通せない直角の曲がり角 左：(六)、中央：(八)、右：十二



曲がり角（八）の手前の「蓮光寺」



町屋敷地の始めりに位置する「薬師神社」

まちなか観光

十二曲りを分かりやすく、魅力的な街道にするため、カラー舗装の試験施工、案内看板や路面表示の充実等、観光パンフレットがなくても散策できる環境づくりを進めます。

また、十二曲りのある市街地を見下ろせる松岡公園の景色の良さを広く周知し、眺望の支障となる樹木の枝打ち等を適宜行います。

令和3年からアーティスト・イン・レジデンス活動（芸術家が滞在して地域と交流する活動）を始動させており、一流写真家とのまちなみ撮影会や写真の展示等、地域の魅力を再発見しながら、町民の芸術文化の向上にもつながる取り組みを推進します。



高台にある桜の名所「松岡公園」から眺める松岡の市街地



モダン建築。禅や食がテーマの町魅力発信交流施設「えい坊館」



松岡小前の曲がり角の案内看板



一流の写真家（Iバレット・ブラウン氏）とのまち歩き、まちなみ撮影会



景観への配慮と見えやすさの両立が課題の道路側溝蓋を利用した路面表示

歴史を学ぶ

松岡藩は 1645 年、福井藩を割って、徳川家康のひ孫にあたる松平昌勝が藩主となって誕生し、城下町が置られました。

約 300 年前の 1721 年、松岡藩は福井藩に統合されて廃藩となり、松岡の町は大きく衰退しますが、これを救うため、酒造や鋳物等の様々な産業が興り、活気を保ちました。

最盛期には 17 軒もの造り酒屋があり、今も残る 2 軒の造り酒屋は、地域の宝である水を活かし、全国に誇れるお酒を造り続けています。

地域の歴史を学び、伝えることはとても重要です。公民館や図書館等で、松岡の城下町や歴史を振り返る写真展、文化財講座等を開催し、歴史に触れる機会を創出します。

町内 7 地区が指定されている「福井県伝統的民家群活用推進地区」への追加指定を目指すし、十二曲り周辺の候補地区へ働きかけを行います。また、「ふくい伝統的民家」を対象に改修費等の補助支援を行うことで、伝統的民家の保存・普及を推進します。



歴史を振り返る写真展の開催



松岡藩史跡「お館の橋」



十二曲りででのまち歩き



造り酒屋「田邊酒造」の門構え



十二曲りで開かれる松岡藩の催事「御像祭」

Project 2

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
街道	①十二曲りの周知、知名度アップ、見える化	●	●			
	②十二曲りの一部区間で、路面表示やカラー舗装等の試験施工	●				
	③初来訪者でも現地で道や角が一目で分かるよう見える化。路面表示や案内看板の充実	●				
	④まちなかを眺める視点場の整備（松岡公園の樹木の枝打ち）	●				
まちなか観光	①まち歩きやサイクリングイベント等の開催、観光パンフレット等で広く周知	●	○			
	②アーティスト・イン・レジデンス活動の推進。芸術家が滞在して地域と交流。町民の芸術文化の振興	●	●			
	③有名写真家とまち歩きしながら、まちなみ撮影会の開催。撮影写真の展示	●	○			
	④お店の宣伝を含む観光パンフレットの作成（まちづくり会社等）		●			
	⑤十二曲りの観光案内モデルコース作成、周知	○	●			
	⑥観光ボランティアガイドの育成や担い手の確保、ガイドの会への支援	●	○			
	⑦えい坊館の有効活用	●				
歴史を学ぶ	①松岡の歴史を学ぶ機会の創出。企画展や文化財講座の開催	●	○			
	②松岡藩廃藩 300 年（令和 3 年）に合わせ、公民館や図書館で城下町の歴史を学ぶ企画展等の開催	●	○			
	③早稲田大学による松岡歴史教科書作成との連携。教科書の有効活用	○	●			
	④地元区へ「福井県伝統的民家群活用推進地区」申請の働きかけ。追加指定後、景観向上活動へ補助支援	○	●			
	⑤地元住民へ「ふくい伝統的民家」申請の働きかけ。追加認定後、景観に調和した改修へ補助支援	○	●			
	⑥歴史資源（蔵、うだつ、町割り等）の調査研究	○	●			

※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

Project 3 浄法寺山を背に九頭竜川を臨む新たな産業交流拠点の『九頭竜川志比北リバーサイド』

産業・交流

志比北地区は、浄法寺山を背に九頭竜川を眼下に臨める抜群の景観に加え、北陸自動車道福井北・丸岡・永平寺の各 I C や福井市街地、県恐竜博物館にも近い絶好のエリアです。

令和 4 年 6 月、発酵文化を世界に発信する地元酒造（黒龍酒造）により、魅力体感施設やレストランが整備されました。この建築物は一流建築家が手掛け、敷地内では電線地中化も行われるなど、本町を代表する新たな建築景観になっています。

隣接地では、宿泊施設付きレストラン「オーベルジュ」の進出が計画されるなど、1 つの企業進出が呼び水となり、他の企業が相次いで進出する好循環が生まれ、本町はもとより本県の新たな産業・観光交流拠点となることが期待されています。

このロケーションを最大限に活かし、地場産業や食に関する企業立地が続くよう、引き続き、土地利用調整や進出企業への助成など、積極的な企業誘致を進めます。



地元酒造会社による発酵文化の魅力体感施設。手前は鮎街道の桜並木



明治時代の社交場・鹿鳴館等を手掛けたイギリスの一流建築家ジョサイア・コンドルの子孫サイモン・コンドルが手掛けた建築物「臥龍棟（がりゅうとう）」日本酒やワインを貯蔵



手前が「酒樂棟（しゅらくとう）」、奥が「臥龍棟（がりゅうとう）」



ショップとレストランがある「酒樂棟（しゅらくとう）」



鮎街道から見る三角屋根の「臥龍棟（がりゅうとう）」



九頭竜川を見晴らせる2階展望テラス



酒樂棟のオシャレな店内

浄法寺山と九頭竜川（背山臨水）

標高 1,053m の浄法寺山は、本町で最も高く、山頂の展望台からは、遠くは日本海まで見渡すことができます。

本町の広い範囲から浄法寺山を望むことができ、町民にも広く親しまれていることから、環境の保全や周知等を図っていく必要があります。

浄法寺山登山口に位置する浄法寺山青少年旅行村は、令和2年より林道の亀裂等により休村していますが、再開を目指して現在、地すべり調査を行っています。

眼下を流れる九頭竜川がさらに身近な存在になるよう、水面に触れられる親水空間の整備や、九頭竜川を活かした新たなイベントの検討を行います。

山並みや九頭竜川を見渡せる新しい視点場を発掘し、ドライブやサイクリング等で立ち寄りたくなる場所を目指します。



浄法寺橋（飯島側）から、浄法寺山と九頭竜川を臨む



冠岳の展望台から望む永平寺町



浄法寺山青少年旅行村

鮎街道

九頭竜川沿いの県道、通称「鮎街道」の沿道には、壮大な桜並木やポケットパークがあり、絶好のドライブルートとして親しまれています。

鮎街道のさらなる周知や知名度向上に向けて、新たなサイクリングルートの設定や観光パンフレットへの掲載、ポケットパークのトイレ改修、九頭竜川の眺望を確保する樹木の枝打ち等を行います。

地元住民による桜並木の保全やプランター植えの花が、華やかな景観を形成していることから、このような活動が継続され、広まっていくよう支援します。



残雪の白山連峰を遠景に、桜並木の春の鮎街道



鮎街道沿いの岩野沿道スペースのプランター



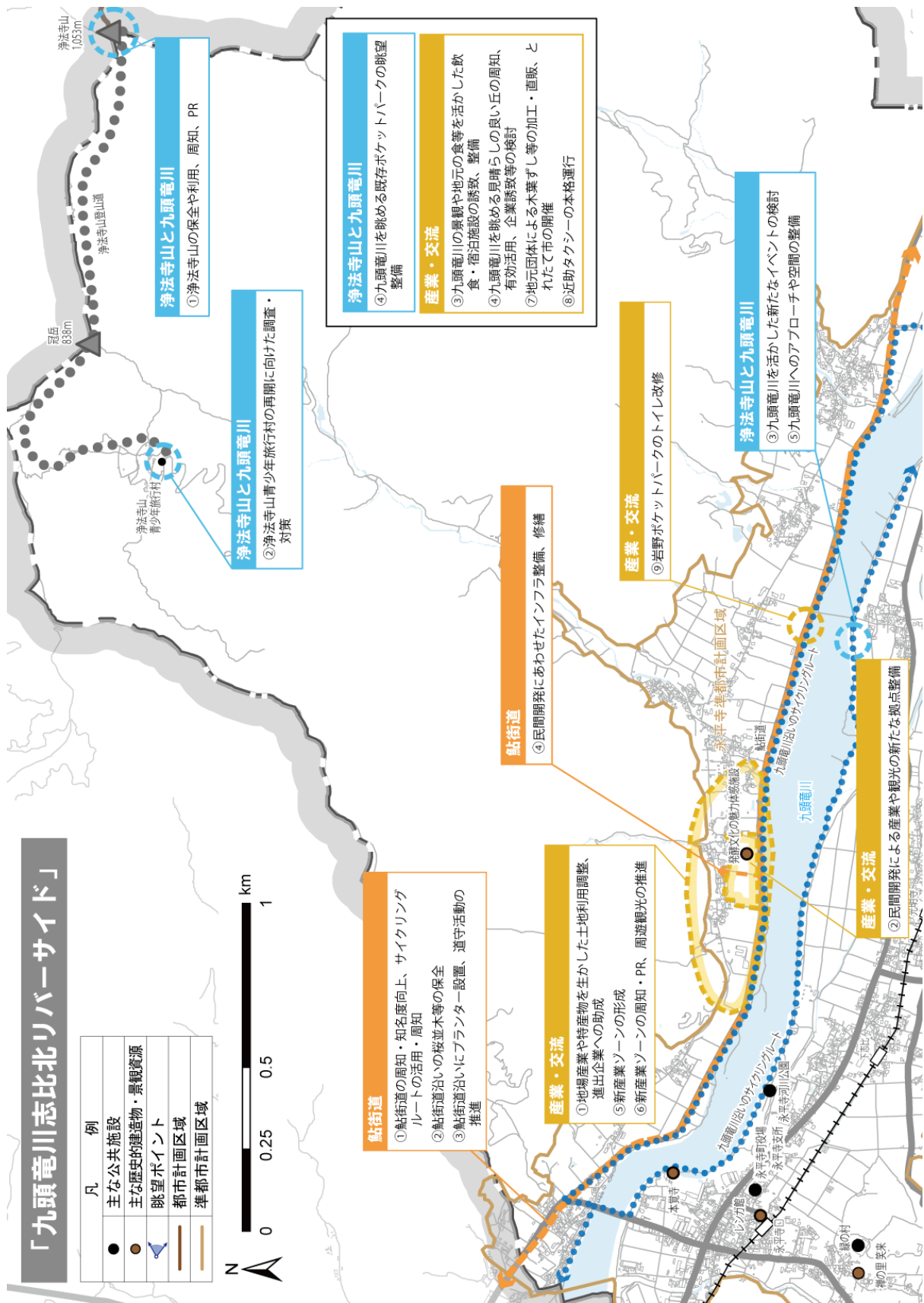
鮎街道に点在するポケットパーク



鮎街道のサイクリングルート表示



景観への配慮が必要な鮎街道の看板



Project 3 『九頭竜川志比北リバーサイド』の位置図

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
産業・交流	①地場産業や地域特産物を活かした施設や企業が立地しやすい土地利用調整、進出企業への助成	●	○			
	②民間開発（発酵文化の魅力体感施設）による産業や観光の新たな拠点整備	○	●			
	③九頭竜川の景観や地元の食等を活かした飲食・宿泊施設の誘致、整備	●	○			
	④九頭竜川を眺める見晴らしの良い丘（開田）の周知、有効活用、企業誘致等の検討	○	●			
	⑤ 1つの企業進出が呼び水となり、他の企業が相次いで進出する好循環により、新産業ゾーンを形成	○	●			
	⑥新産業ゾーンの周知、PR。周遊観光の推進。観光パンフレットへの掲載	○	●			
	⑦地元団体による木葉ずし等の加工・直販、とれたて市の開催	●				
	⑧近助タクシーの運行（地元住民がドライバーを担う住民共助のデマンド型タクシー）	○	●			
	⑨岩野ポケットパーク（近隣の休憩所）のトイレ改修	●				
浄法寺山と九頭竜川 背山臨水	①浄法寺山の保全や利用、周知、PR	●	●			
	②浄法寺山青少年旅行村（令和2年より休村中）の再開に向けた周辺地すべり調査、対策	●				
	③九頭竜川を活かした新たなイベントの検討・企画・実施	●	●			
	④九頭竜川を眺める既存ポケットパークの眺望整備。樹木の枝打ち等	●				
	⑤九頭竜川へのアプローチや水面に触れられる空間の整備	●				
鮎街道	①鮎街道の周知、知名度向上。サイクリングルートの活用、周知	●				
	②鮎街道の景観を楽しめるよう、桜並木等を保全	○	●			
	③鮎街道沿いにプランターを設置。地元との連携による道守活動の推進	○	●			
	④民間開発にあわせ、必要に応じて町道等のインフラを整備、修繕	●				

※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

Project 4 温泉や道の駅を活かした町民の憩いとレクリエーション エリアの『上志比タウン』

生活と交流

上志比地区中心部の国道 416 号沿いに、「道の駅 禅の里」と「永平寺温泉 禅の里」が併設されています。

「道の駅 禅の里」は、駐車場拡張整備により、イベントスペース拡大や駐車場不足が解消されたことから、道の駅がますます賑わうよう、イベントの開催、特産品の販売、情報発信、地域交流、休憩機能等の強化を図っていきます。

深さ 1,710m から湧出した温泉水を利用し、N a、C a、炭酸水素などの成分量が 2 万 m g 以上と高濃度で、多くの成分を含んだ良質な温泉「永平寺温泉 禅の里」についても、指定管理者と連携し、利用者増加に向けた対策を検討します。

周辺には、町役場上志比支所、公民館、文化会館サンサンホール、ニンキー体育館などが点在し、町民の生活や交流等の拠点エリアとなっています。健康増進につながるよう、自転車や徒歩での移動を増やす仕掛けづくりを検討するとともに、上志比エリア全体を周遊できるよう、新たなサイクリングルートの設定や周知を行っていきます。



町民の憩いとレクリエーション、地域と観光の交流拠点。永平寺温泉と道の駅「禅の里」



2階展望台がある「道の駅 禅の里」の特徴的なフロント



観光客も訪れる永平寺温泉の無料の足湯



上志比地区の特産品にんにくなどの販売



高濃度で多くの成分を含む永平寺温泉



イベント開催で賑わう道の駅

上志比エリアは田園風景が広がり、道の駅「禅の里」2階展望台など場所によっては白山が見える見通しの良い景観が特徴的であり、優れた眺望を周知・PR していきます。

田園風景を保全・活用するため、上志比にんにく収穫体験ツアー等、収穫や地元特産品の試食イベントを開催していくとともに、市民農園など気軽に農業と関わるができる仕組みを検討します。



近景の九頭竜川、中島河川公園、ナミノバ、国道416号沿いの桜並木。遠景に白山



「道の駅 禅の里」2階展望台から見る白山



道の駅隣接地に整備されたビニールハウス農園



木のぬくもりのある建て替え間もない役場上志比支所



上志比文化会館サンサンホール

水に親しむ

九頭竜川河川敷の中島河川公園は、散歩やスポーツ等に広く利用されています。

令和3年、中島河川公園上流側に上級者向けのフリースタイルカヤック競技場「ナミノバ」がオープンしました。関西電力市荒川発電所の放水を利用しており、年間を通じて最大毎秒 80 t の水が流れ出ます。安定した流れが特徴で、練習だけでなく世界大会の開催を目指すコースとなっています。

水に親しむ上志比エリアの新たな拠点となるよう、「ナミノバ」の周知や利活用を図るとともに、中島河川公園でのイベント開催や視点場整備、サイクリングルートの設定・周知等を行います。



九頭竜川の上級者向けのフリースタイルカヤック競技場「ナミノバ」



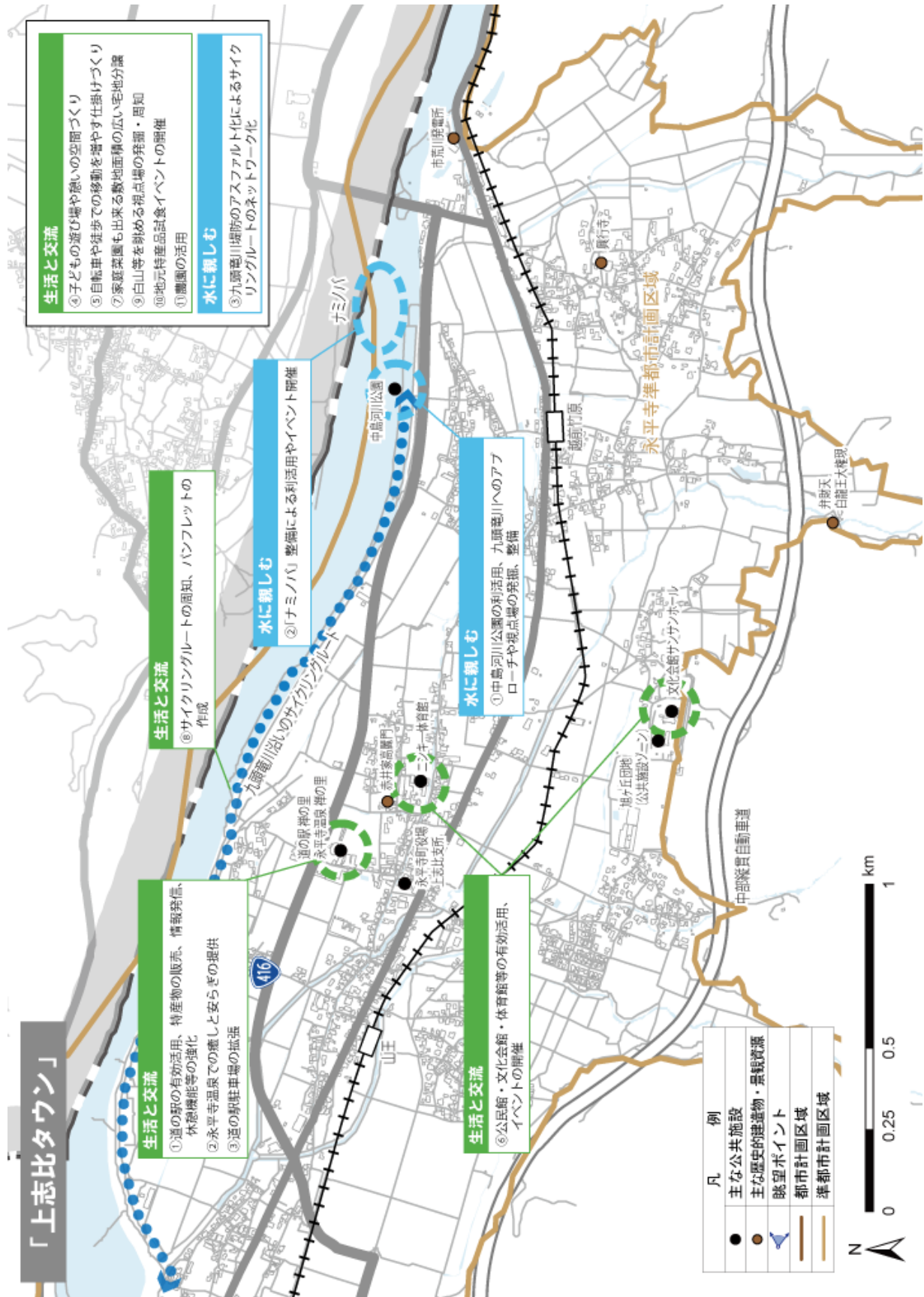
「ナミノバ」でのカヤック競技



カヤックをあやつる永平寺町在住の松永選手



広大な芝生広場が広がる九頭竜川の河川敷「中島河川公園」



Project 4 『上志比タウン』の位置図

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
生活と交流	①道の駅のさらなる有効活用。イベントの開催。特産品の販売、情報発信、地域交流、休憩機能等を強化	●	●	■		
	②永平寺温泉での癒しと安らぎの提供	●	○	■		
	③道の駅駐車場の拡張（イベントスペース拡大、イベント開催時の駐車場不足解消）	●		■		
	④子どもの遊び場、子育て広場等の憩いの空間づくり	●			■	
	⑤健康増進につながる自転車や徒歩での移動を増やす仕掛けづくり	●	○	■		
	⑥公民館、文化会館サンサンホール、ニンキー体育館等の有効活用。各種イベントの開催	●	●	■		
	⑦家庭菜園も出来る敷地面積の広い宅地分譲	●	○	■		
	⑧サイクリングルートの周知、パンフレットの作成	●		■		
	⑨白山等を眺める視点場（道の駅展望台2階等）の発掘・周知	●	○		■	
	⑩上志比にんにく収穫体験ツアー等、収穫や地元特産品の試食イベントの開催		○	■		
	⑪農園の利活用		○		■	
水に親しむ	①中島河川公園の利活用、九頭竜川へのアプローチや視点場の発掘、整備	●		■		
	②カヤック競技場「ナミノバ」の整備による利活用やイベント開催、大会の誘致	○	●	■		
	③九頭竜川堤防のアスファルト化によるサイクリングルートのネットワーク化	●	○	■		

※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

Project 5 田園豊かで若者が集う学園拠点の 『県大永平寺キャンパス』

キャンパス

若者が集う2つの大学がある町も永平寺町の特徴の一つです。

田園豊かなこのエリアには、「福井県立大学」（永平寺キャンパスが県大のメインキャンパス）や「福井大学医学部」のほか、複数の専門学校や研究機関、医療機関が集積しています。

特に福井県立大学は、広大なキャンパスを「県民のにわ」として町民・県民に広く開放されるなど、地域に開かれた大学になっています。

桜の植樹や保全、テーブルやベンチの設置など、県立大学を桜の名所にする取り組みが行われているほか、一般の方も利用できる県大レストランがリニューアルオープンしたところです。

県立大学と本町は、包括的連携に関する協定を締結しており、人材育成やまちづくり、教育など、幅広い分野で連携し、様々な取り組みを進めています。

今後も学生と地域の交流機会を充実させ、若者が集う活気あふれるまちづくりを推進します。



地域に開かれた大学「福井県立大学」



県民に広く開放されている福井県立大学の広大なキャンパス「県民のにわ」



ベンチがたくさんある県大キャンパス



景観シンポジウムの開催



大学による植樹や保全で、桜の名所に



県大生によるフィールドワーク

田園

県大や医大の周辺には広大な田園が広がっており、大学等の近代的な建築との対比が印象的な景観となっています。

十郷用水パイプライン上が一部広場となっているほか、十郷用水では水遊びイベントが行われています。

今後もこの農地景観を保全するため、農地保全に向けた取り組みや特産品である「五領たまねぎ」の作付け等を推進します。



豊かな田園に囲まれた福井大学医学部



十郷用水パイプライン上の広場



十郷用水で開催された水遊びイベント

まちなみ

県大等の周辺道路は、街路樹がある緑豊かな道路空間となっています。今後も街路樹の剪定や植樹の維持管理を適切に行い、良好な道路景観を維持していきます。

学生や地域住民に道路の清掃活動等に積極的に参加してもらえよう、道路への愛着を醸成するため、道路に通り名（例：県大通り・福井大学病院前通り）を付けることを検討します。

エリア南部を流れる九頭竜川には、スポーツやイベントに広く利用されている松岡河川公園があり、堤防沿いには永平寺福井自転車道が整備されています。

今後も河川公園や自転車道の有効活用や利用促進にも取り組むとともに、県大や福井大学医学部の北側を流れる五領川についても除草や伐木等の適切な管理を行います。



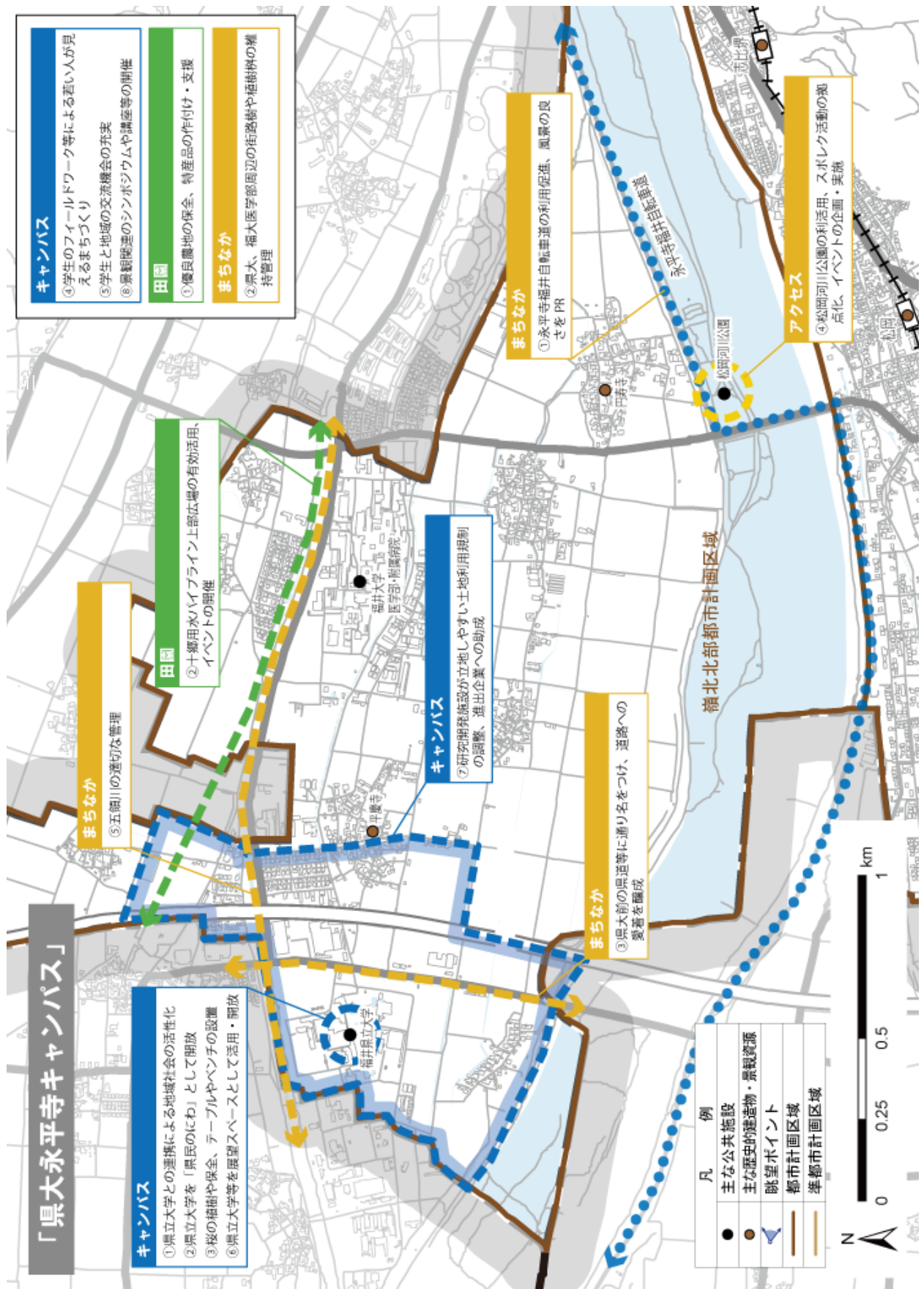
修景整備されている県大前の大通り。「県大通り」等の通り名を検討



マレットゴルフ愛好家が集う松岡河川公園



九頭竜川堤防上の永平寺福井自転車道



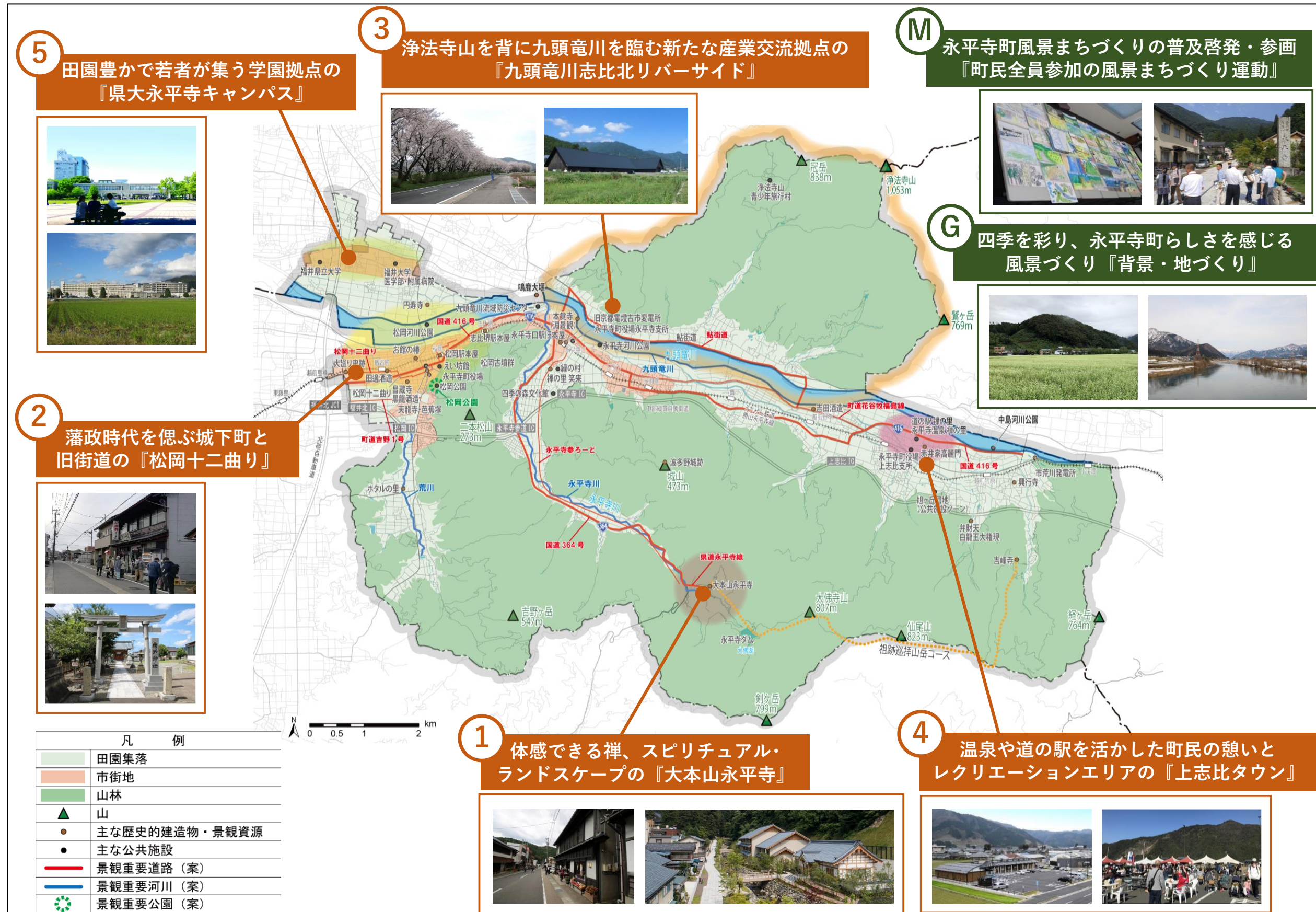
Project 5 『県大永平寺キャンパス』の位置図

■風景まちづくりの具体的な取り組み内容

施策名		役割分担		スケジュール		
		行政	町民 事業者	R2～ R3	R4～ R6	R7～
キャンパス	①県立大学と町の相互連携による地域社会の活性化、交流、産業振興、人材育成、学びの提供	●	●			
	②開かれた県立大学。広大なキャンパスを「県民のにわ」として開放		●			
	③県立大学を桜の名所に。桜の植樹や保全、テーブルやベンチの設置		●			
	④学生のフィールドワーク等による調査研究で若者が見えるまち。学生に町の景観を考えてもらう機会の創出		●			
	⑤学生と地域の交流機会の充実（放課後子ども教室の運営に県大生が参加等）		●			
	⑥県立大学等のビル高層階を展望スペースとして活用・開放	○	●			
	⑦製造業、IT産業（企業）、農業と連携した研究開発施設が立地しやすい土地利用規制の調整、進出企業への助成	●				
	⑧景観に関するシンポジウムや講座等の開催	●	○			
田園	①優良農地の保全。九頭竜川沿いで生産が多い特産品の五領たまねぎの作付け、支援	○	●			
	②十郷用水パイプライン上部広場の活用や十郷用水に親しむイベントの開催	●				
まちなみ	①永平寺福井自転車道の利用促進。九頭竜川堤防から田園を眺める風景の良さをPR	●				
	②県大、福大医学部周辺の良い道路景観に向けて、街路樹の剪定や植樹の適切な維持管理	●	○			
	③県大前の県道等に通り名（県大通り等）をつけ、道路への愛着を醸成	●				
	④松岡河川公園の利活用、スポレク活動の拠点化、イベントの企画・実施	●	○			
	⑤五領川の適切な管理（除草、浚渫、伐木）	●				

※太字は重点施策、●は活動・開催主体、○は参加・支援を表す

(3) リーディングプロジェクト方式による景観計画



永平寺町景観計画